第1章　増加する住宅火災・その原因

住宅火災による死者は年1，000人以上死因の7割は「逃げ遅れ」によるものだ

火災が発生した場合、実は「炎」より「煙」の方が怖い
犠牲者の多くは、煙に巻かれて意識を失い、逃げ出せなくなってしまうからだ

住宅火災で亡くなる人は増加の傾向に

全国で発生する建物火災は、年間約3万件にのぼる。

「火災」というと、平成13年9月に起きた東京・新宿区歌舞伎町のビル火災（44人が死亡）や、平成21年3月に起きた群馬県渋川市の静養ホームの火災（10人が死亡）が記憶に新しいところだ。

しかし実は、これら建物火災の中で、割合がもっとも高いのは、店舗でも工場でもない。一般住宅の火災（戸建住宅、アパート、マンションなど）なのである。しかも建物火災の死者数の約9割は、住宅火災によるものだ。

総務省消防庁のデータによれば、住宅火災による死者数（放火自殺者などは除く）は平成11年が981人、平成12年が936人、平成13年が923人と、年々減少していたが、平成14年以降増加に転じた。平成17年には1，220人、平成18年中もそれに次ぐ1，187人の死者数を記録。平成15から18年まで、4年連続で1，000人以上の人が住宅火災で命を落としている（左グラフ）。

また住宅火災による死者数は、65歳以上の高齢者が毎年過半数を占めている。その数も年々増え続けている（左グラフ）。

今後高齢化社会が進むにつれ、住宅火災による死者数は、さらに増加していくことが懸念されている。

ではなぜ建物火災の中で、住宅火災の件数が非常に多いのだろうか？

原因の一つとして、法の整備の遅れが考えられる。店舗や工場など、人が集まる建物については、たびたび消防法が改正されてきた。防火扉やスプリンクラーの設置義務など、さまざま対策が施されてきたのだ。それに対し一般住宅については、ほとんど防火に関する規制がなされてこなかった。これは従来、一般住宅については個人の努力で防火対策を施すべきという考え方があったからだ。

住宅火災による死者の数が年々増え続けている今、そんなことは言っていられないのが現状だ。

住宅火災の死因は逃げ遅れが一番多い

住宅火災が起こる原因（放火を除く）で、もっとも多いのが、コンロからの出火。以下、たばこの不始末、ストーブからの発火…などが続く。たばこで一服したり、寒い時期にストーブで部屋を暖めたり、コンロで料理をするのは、ごくありふれた日常生活の一場面。つまり火災は、いつでも発生する危険があるということなのだ。

では、住宅火災で「命」を落としてしまう人が、増え続けているのはなぜだろう。

住宅火災の死因を見てみると、「火災の発見が遅れ、気付いたときには逃げ道がなかった」「煙から逃げ切ることができなかった」など、いわゆる「逃げ遅れ」が圧倒的に多い。死因の約7割を占めるほどだ（円グラフ）。住宅火災は夕食の準備時間と、深夜帯に多く発生する。特に深夜は住人が就寝中のため、火災の発生に気付かないことが多い。気が付いたときにはもう手遅れなのだ。

まず気を付けなければならないのは煙

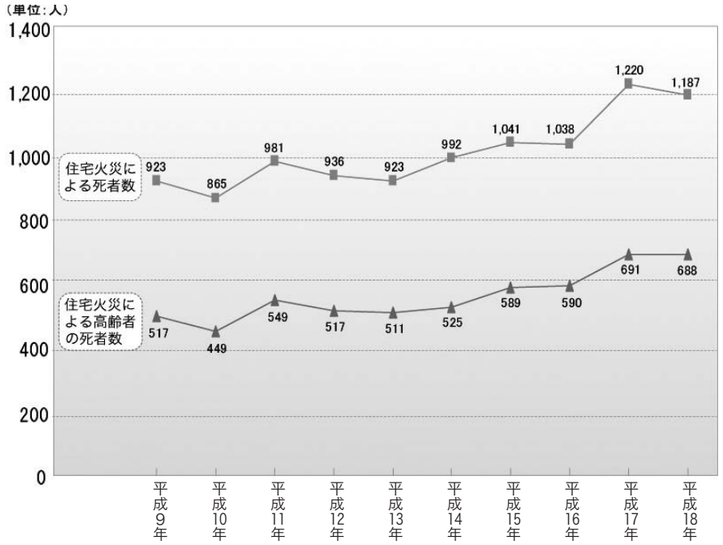
最近の戸建住宅やアパートなどは天井があまり高くない。また部屋の密閉性が高いため、煙が外へ逃げない。このため部屋中に煙が充満するのが非常に速い。深夜の火災の場合、就寝中の住人は、煙を吸い込んで一酸化炭素中毒に陥ってしまう。そのまま意識を失い、逃げ出せなくなったり、命を落としたりしてしまうのだ。

島田市消防本部では「火災で何より怖いのは煙に巻かれてしまうことです。火災による犠牲者は、司法解剖により死因を調べます。その結果、ほとんどの犠牲者は煙を吸い込んだことによる一酸化炭素中毒が原因で、死に至っているのです。逃げ遅れは、煙が原因で起こってしまうということを、知っておく必要があります」と話している。

火災というと、最初に思い浮かべるのは「炎」に襲われるイメージだろう。もちろん炎が怖いことは間違いない。

しかし火災の際、まず住人を襲ってくるのは「煙」だということを知ろう。煙が室内に充満してしまう前に気付けば、助かる可能性が高いということも。すべては、火災発生初期の対応にかかっている。大切な「命」を守るために、わたしたちに何ができるか考えてみたい。

住宅火災による死者数の推移（放火自殺者などを除く）

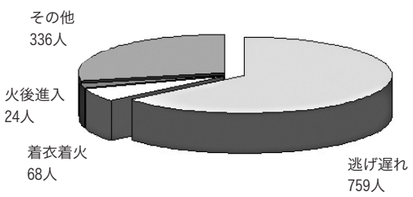


近年、住宅火災による死者数が増えている。平成15年から18年まで4年連続して1,000人以上の人が住宅火災で命を落としている。平成17年は、データのある昭和54年以降で最多の1,220人を記録。平成18年もそれに次ぐ1,187人の死者数を記録している。

年間の住宅火災による死者数で、もっとも高い割合を占めるのは高齢者。毎年全体の過半数に達しており、今もその数は増え続けている。高齢化社会が進むことを考えると、このままでは住宅火災による死者数はさらに増加していくと懸念されている。

総務省消防庁

住宅火災による死者数（平成18年）の死因



総務省消防庁

住宅火災による死者を減らすためには、まず「逃げ遅れる人」を減らさなければならない